

古賀市議会 2023年第3回定例会（9月）

最終日本会議における討論

2023年9月27日

古賀市議会議員 奴間健司

**（3）第53号議案 令和4年度古賀市一般会計決算の認定
について**

第53号議案 「令和4年度古賀市一般会計決算の認定について」賛成の立場で討論します。

決算審査では、8月31日の本会議で大綱質疑を行い市長の見解を求めました。9月15日から22日までの決算審査特別委員会では33件について詳細質疑を行い、22日には職員健康診査委託について市長質疑を行いました。会派の資料要求は73件でした。

（1）決算審査を通じて判明したこと

2022年度の一般会計の歳入は297億2288万2千円、歳出は281億3285万5千円、実質収支で14億2269万2千円の

黒字です。

歳入は対前年度約 23 億 3 千万円増となっておりますがその主な要因は、財政調整基金繰入、海津木苑建替え起債、純繰越金増などでした。歳出は対前年度比約 29 億 5 千万円増となっておりますが、その主な要因は海津木苑建替え工事、ふるさと応援寄付基金をはじめ特定目的基金積み立てなどでした。

2022 年度には 6 回の補正予算が行われ補正額の総額は 44 億 6083 万 8 千円に上りました。その結果、歳入決算額は当初予算額と比べて約 48 億 5 千万円の増となり、歳出決算額は約 34 億 5 千万円の増となっております。

単年度収支は約 6 億 9 千万円の赤字、実質単年度収支は約 7 億 7 千万円の赤字ですがその主な要因は特定目的基金の積立が多かったことでした。

経常収支比率は 88.3%で対前年度比 4%増となっておりますが、その要因は普通交付税は増えたが臨時財政対策債が減少したことでした。

地方債残高は 151 億 849 万 4 千円で対前年度比約 6 億 8 千万円増となっており、その主な要因は海津木苑建替えによる起債でした。

基金残高は 83 億 265 万 6 千円で対前年度比約 13 億 2 千万円増で、財政調整基金は約 8 千万円減だが特定目的基金が増となっていました。

2022 年度決算に基づく健全化判断比率では、実質公債費比率が 4.4%で対前年度比 0.1%減でした。厳しさは増しているが大きな事業に取り組む余力はあるという市長の認識に変更はありませんでした。

監査委員は、予算執行状況はおおむね適正と認めています。そのうえで、引き続き厳しい財政状況が想定されることから、財政全般において改善に向けた取り組みが必要と指摘して

います。

歳出で特徴的、対前年度比で増となった主な事業は、ふるさと応援寄付基金積立金増、汚泥再生処理センター・海津木苑建設工事、電気料金高騰対策事業者支援金、古賀北中大規模工事、千鳥小と古賀中トイレ改修工事、長期債元利償還金の増などとなっていました。小中学校への独自の人的配置は総計約1億6200万円、対前年度比25.2%増となっていました。

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金6億1442万8千円を活用したコロナ対策や物価高騰対策が実施されました。財政課まとめではこの交付金活用も含む新型コロナ関連の主な事業の決算額は約16億3700万円に上ることでした。

(2) 決算認定賛成の理由

以上の決算状況を確認することができました。

2022年度の財政運営は厳しさは増すものの、健全財政を維持したと認められること。その結果、コロナ禍や物価高騰

期においても市民生活や事業活動を守る効果をもたらした
こと。6回の補正予算すべてを専決処分とせず議決を求めた
ことも評価します。決算を不認定とする事項はなかったこと。
以上から、2022年度・令和4年度一般会計決算認定に賛成
します。

(3) 指摘事項

①2022年度施政方針における予算編成の重点事項が明確で
ないため、決算状況のチェック対象が絞れない点がありまし
た。

そこで、2024年度施政方針では予算編成における重点事
項を数点に絞り明確化するよう指摘します。

②各事業の効果を測定する目標値が明確でなく、事業の効果
を測定しにくい点がありました。

そこで、2024年度には各事業の目標値を明確化すること。
事務事業評価を実施しその結果を決算資料として提出する
よう指摘しておきます。

③各事業に対する市民評価がなく、市民の満足度を把握でき
ない点がありました。

そこで、2024 年度には各事業に対する市民満足度調査を実施しその結果を決算資料として提出するよう指摘しておきます。

④資料等のミスや部門間の報告、共有、連携不足などが目立った点がありました。

そこで、職員のモチベーションとスキルアップ、作業の効率化を徹底すること。部門間の報告は担当者任せにせず全職員で共有するよう指摘しておきます。

⑤財政課が作る決算概要説明書と経営戦略課が作る主要な施策の成果報告書など決算資料が複数あり、全体を把握できる資料がない点がありました。

そこで、1つの決算報告書を読めば決算状況を正確に、わかりやすくポイントを外さず把握できるよう改善するよう指摘しておきます。

⑥市民全体の健康状態を把握できず、健康づくりの成果を測定する目標値が明確でない点がありました。

そこで、2024 年度は、健康経営の観点を徹底し、市民・子ども・職員の健康課題の把握、課題解決のための具体策、目

標値と目標期限を明確化するよう指摘しておきます。

⑦個別事業については委員会での指摘事項を受け止め、来年度予算に反映するよう求めます。

ただ、公共交通については言及します。AI オンデマンドバスに関する決算額は車両購入費 1710 万円も含めて約 5 4 3 3 万円。西鉄路線バス運行補助金は約 4 3 4 8 万円。AI オンデマンドバスについては 9 月補正でミーティングポイントの増設など利用促進策を実施しようとしています。採算ベースには程遠い状況です。市民への PR の徹底、地域住民との協働体制の構築、利便性の向上を劇的に進めることを求めます。

さらに、路線バス補助金は 4 千万円台から今年度は 6 千万円台、そして来年度は 8 千万円台に達する可能性もあります。これは容認できる範囲を超えと言わざるを得ないと思います。AI オンデマンドバスへの着手は、路線バス赤字補填の減額を目指すべきと考えます。「二兎追うものは一兎も得ず」です。

(4) 来年度に向けて

来週、10月3日には2024年度・令和6年度当初予算編成のスタートにあたって（市長メッセージ）、令和6年度予算編成方針、中期財政見通しが公表されます。今回の決算審査における議会、議員の指摘事項がどのように受け止め、反映された内容になっているか、注視したいと思います。

あわせて議会における決算審査が次年度の施政方針や当初予算にしっかり反映できるよう、調査と課題発見、質疑と提言という議会力アップに向けて引き続き研鑽を積んでいきたいという意思も明らかにしておきます。

以上、第53号議案に対する賛成討論とします。